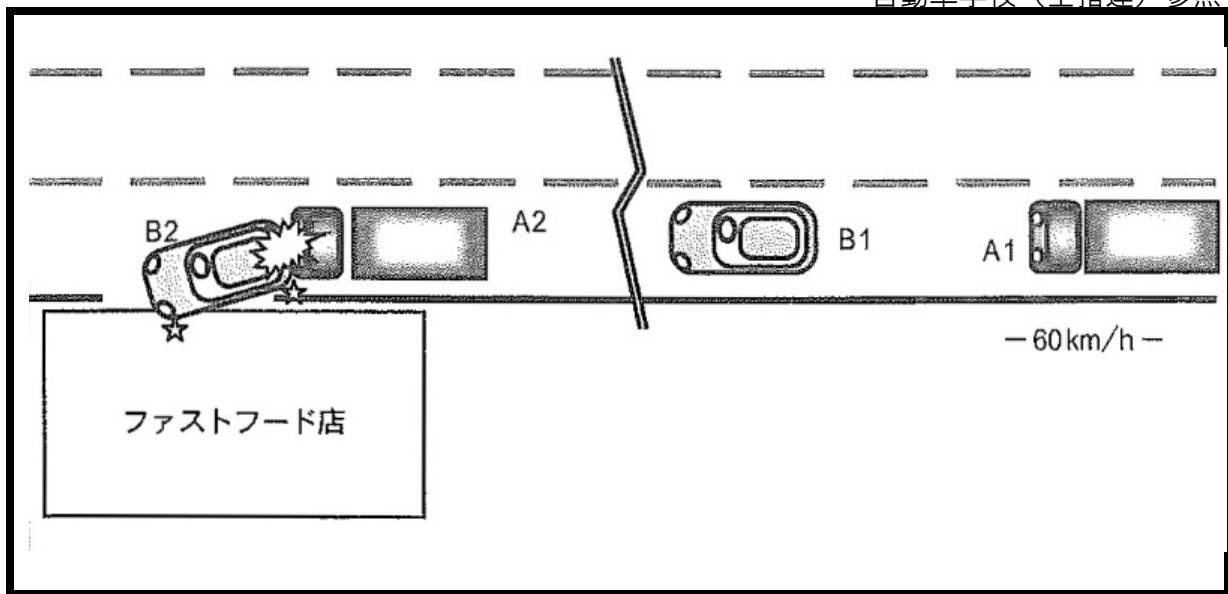


■ 事故の概況

自動車学校（全指連）参照



事故類型：追突

発生日時：5月 午後1時頃 小雨

当事者A：トラック 30歳代 男性

当事者B：四輪車 20歳代 女性

■ 事故の概要

Aはトラックを運転し、時々通行する道路を先行車Bとの車間距離を約10mで走行していました。車の流れは良く、時速約60kmで約1kmの距離を止まることもありませんでした。前方のBが、道路左にあるファストフード店に入ろうとして、その直前で左折の合図を出すと同時くらいに急ブレーキをかけたので、Aも急ブレーキをかけましたが間に合わず追突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

この事例は、前方を見ていたものの、短い車間距離で走行していたことが第一の原因です。その他にも、流れが良かったので油断してしまったことや、交差点でもない場所で先行車が止まることを予測しにくかったことも影響しています。沿道の店などを見て用事を思い出し、急に減速、停止することはままあることです。

通常、前の車のブレーキランプが点灯してから、後続車の運転者がアクセルからブレーキペダルに足を踏みかえペダルを踏みこむまでには約0.7秒かかるといわれています。時速約60kmで走行していれば約12mも走ってしまう計算になります。この事例も、たとえ前に神経を集中していても追突は避けられなかったかもしれません。

ブレーキランプやウィンカーは、脇見をしているかも知れない後続車の運転者に見せるつもりで早めに（長めに）出すことが重要です。

急ブレーキを踏まなければならないようなら、そこでの右左折は見送り、もう1周してくるくらいの余裕を持ちましょう。